

令和5年度病害虫発生予察特殊報 第1号

令和5年7月3日
岐 阜 県

- 1 作物名 サツマイモ（かんしょ）
- 2 病害虫名 ヨツモンカメノコハムシ *Lacoptera nepalensis* Boheman
- 3 発生地域 中濃地域

4 発生状況

令和5年5月中旬に、中濃地域のサツマイモ栽培ほ場（1ほ場）において、葉を加害する大型のハムシ類が多数発生しているとの報告があった。このハムシ類について個体を採取し農林水産省名古屋植物防疫所に同定依頼した結果、ヨツモンカメノコハムシと同定された。

本種は主に沖縄本島以南に分布していたが、平成11年に長崎県で発生が確認されて以降分布が拡大し、令和3年には埼玉県で特殊報が発表されている。近県では平成21年に静岡県、令和元年に三重県で特殊報が発表され、これまでに計14都府県で特殊報が発表されている。

なお、本種による農作物の被害は、本県では初確認である。

5 形態及び生態

本種はサツマイモやノアサガオなどヒルガオ科植物を食害する。成虫は体長7～9mmと大型で、扁平な垂三角形、上翅中央部は茶褐色で強く隆起する。上翅周辺部は半透明の黄褐色で、前方と後方に黒褐色の斑紋を1対ずつ（計4個）有する（写真1）。幼虫は扁平な紡錘形で、周囲体側にトゲ（樹枝）状突起を有し、背面に脱皮殻や糞を背負う（写真2）。

成虫、幼虫ともに植物の葉を食害し、直径数mm～10mm程度の円形または不定形の穴を開ける（写真3）。卵から成虫まで葉上で生活し、土中には生息しないことからサツマイモ塊根は食害しない。

6 防除対策

- （1）早期発見に努め、発生が多い場合は農薬登録情報を確認して薬剤防除を行う。
- （2）ヒルガオ科の雑草は発生源となるため、ほ場周辺の除草を徹底する。
- （3）発生ほ場では茎葉部の残渣をほ場周辺に放置せず、適切に処分する。



写真1 成虫



写真2 幼虫



写真3 被害の様子 (サツマイモ)